

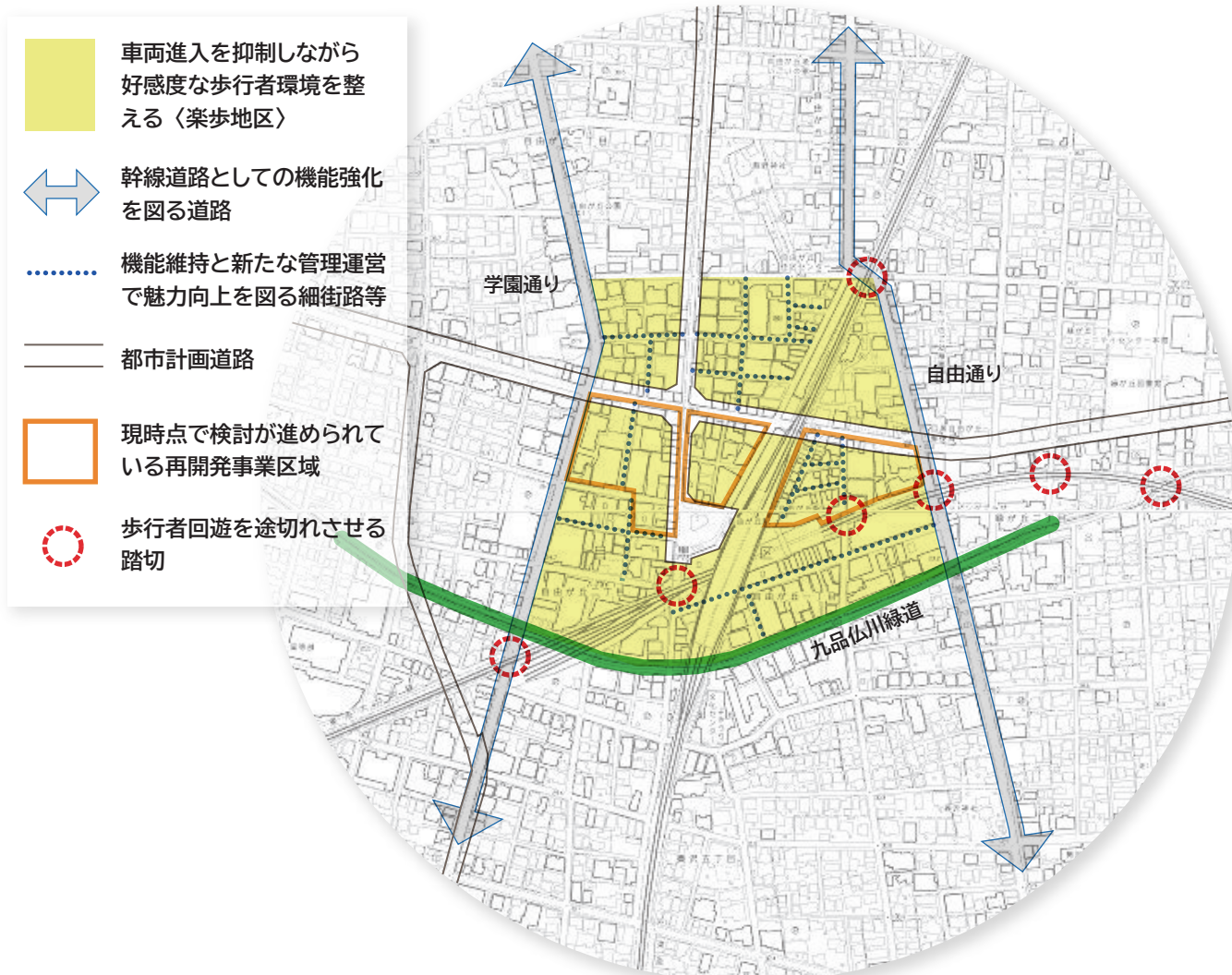


駅前と周辺を安全と楽しさでつなぐ ^{らっぽ}『楽歩、環境をつくりだす』……………誰もが安全・快適に回遊できる歩行者空間の創出

まちの利用者として迎え入れる誰もが心地良さを感じ、また訪れたくなる美しさ・楽しさ・歩きやすさを備えた『楽歩』と称する安全で快適な環境形成を目指していく。駅周辺における通過車両や搬出入車両の進入抑制と、歩行者空間の拡充により、細街路によって自由が丘が醸成してきた回遊の魅力を拡充していく。

方針① 歩行者を主役としていく〈楽歩地区〉の範囲を定める

自由が丘駅周辺において商業機能が集積する区域を対象として、**細街路への車両進入の抑制と歩行者空間の拡充を重点・集中的に進める〈楽歩地区〉**を定め、道路基盤整備、細街路での交通規制の強化、建物更新のルール、駐車場整備ルールを組み合わせることにより、歩行者を主役とした自由が丘ならではの回遊環境を形成を目指していく。



方針② 踏切による回遊の支障を解消する

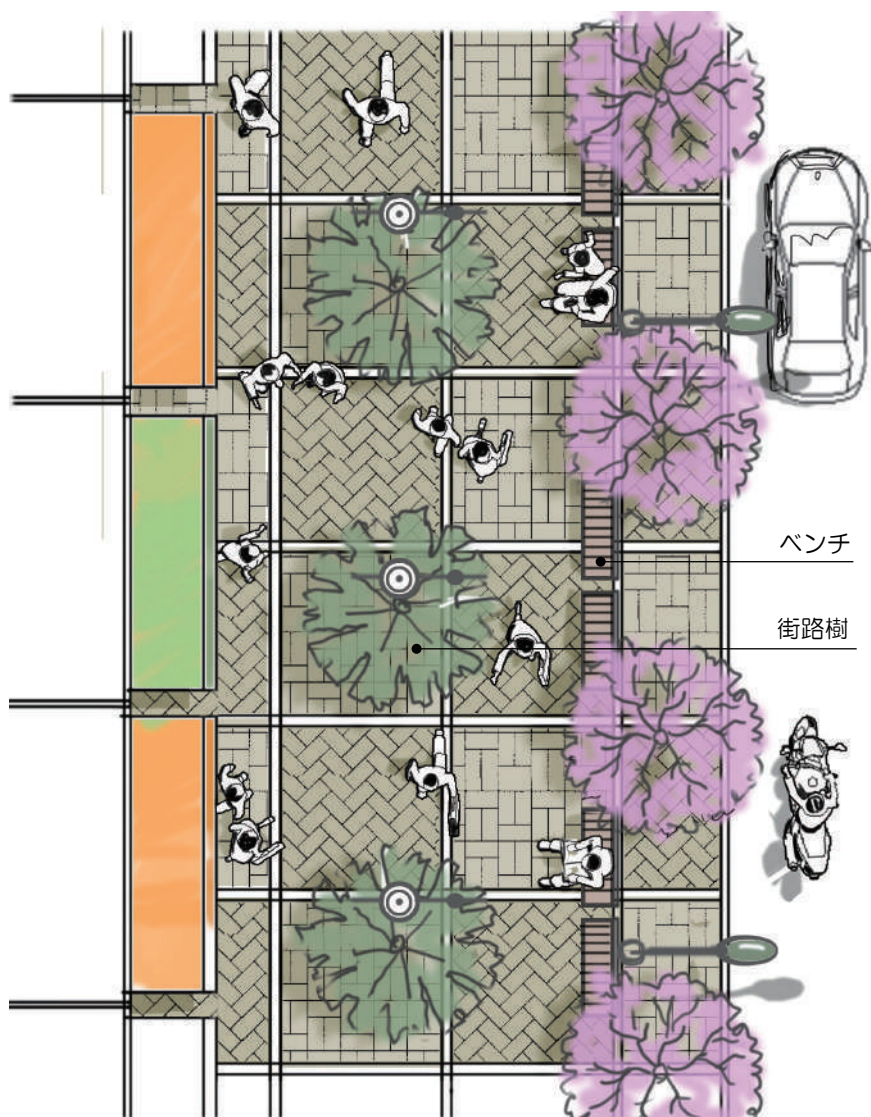
〈楽歩地区〉内における歩行者の円滑な流動をつくり出すために、長期を要するが、**道路と鉄道の立体化**を図り、複数個所（位置は26頁参照）の踏切問題の解決を目指していく。

方針③ 建物の更新を通して〈楽歩地区〉内に出来るだけ多くの歩行者空間（街路樹＋日本一多い座れる場）を創り出す

〈楽歩地区〉をあらゆる人に対して優しく親密な場としていくために、建物の更新等によって出来るだけ幅が広く、フラットに連続する歩行者空間の創出を目指していく。

この歩行者空間においては、**夏場に木陰をもたらし、ビル風を防ぐ街路樹**を、沿道の商業活動に支障をきたさない形での整備を目指していく。

また、九品仏川緑道をはじめとして各箇所に既に設置されるベンチに加え、〈楽歩地区〉内に出来るだけ多くの座れる場を整備し「日本一座れる場所が多い街」を目指していく。



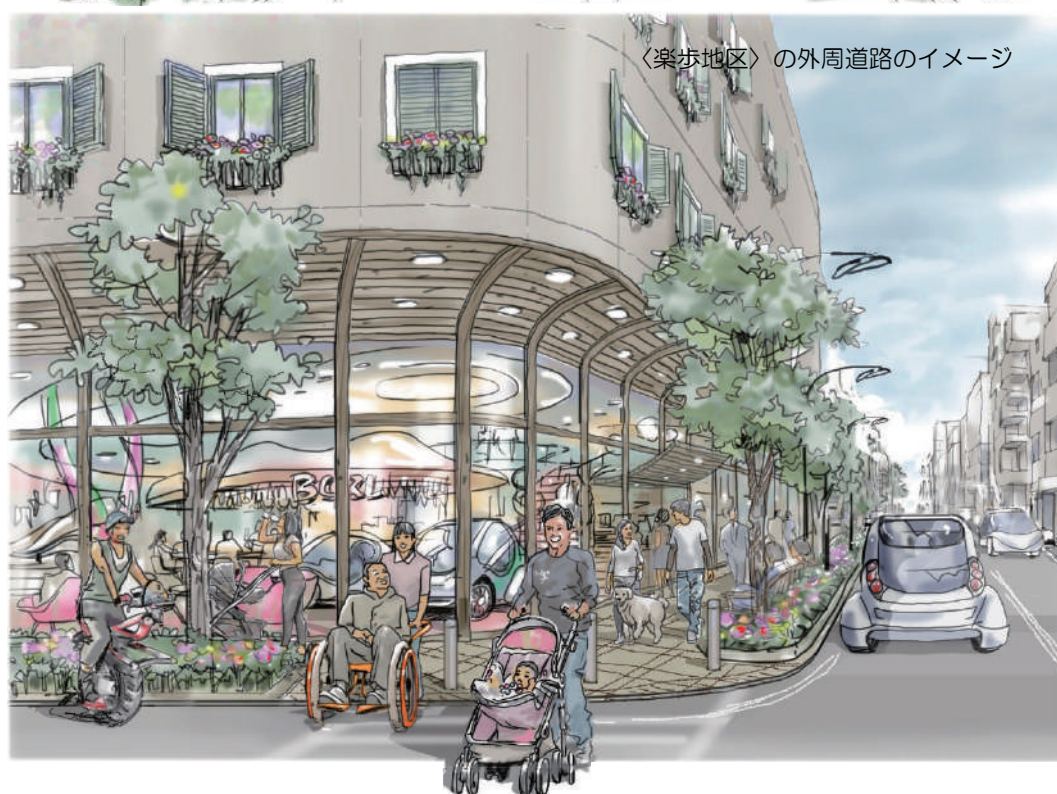
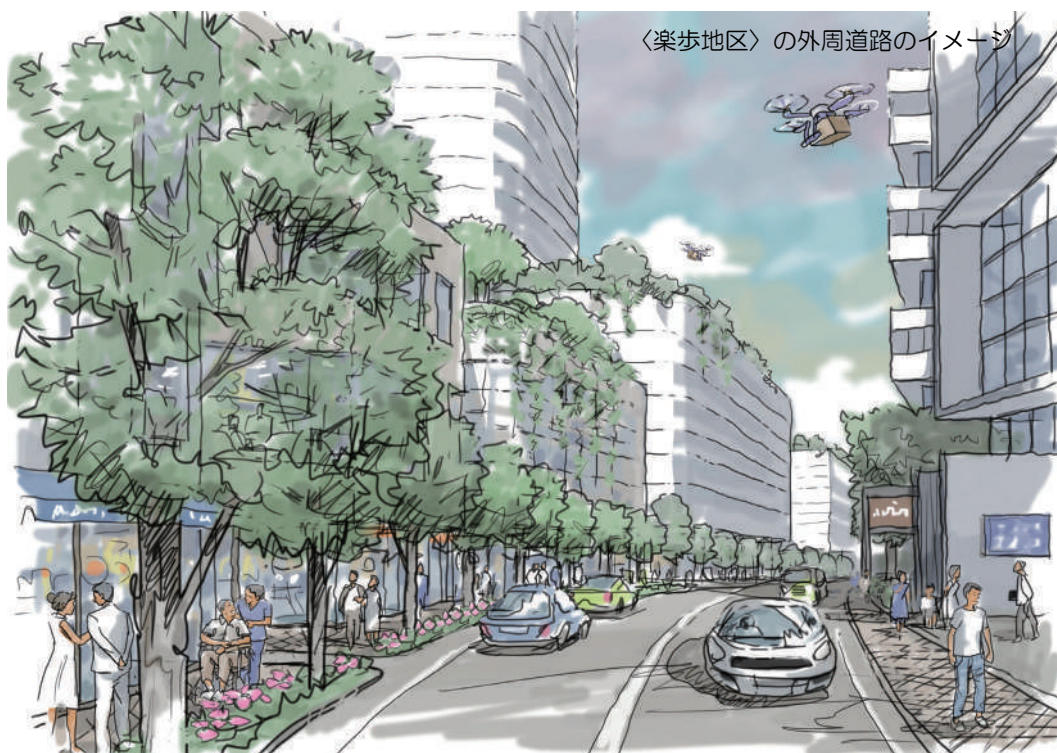
共同化等により壁面後退した敷地外周部を歩行者空間とし、車いすを利用する高齢者やベビーカーを押す親子などが安全安心に回遊できるまちを創り出す。

高齢者や障がい者にもやさしいユニバーサルデザインを取り入れるとともに、街路樹やベンチを出来るだけ設けることで、回遊が楽しくなる環境を整えていく。

〈楽歩地区〉内における歩行者の安全な通行を確保していくために、車両流動を支える学園通りや自由通りの沿道は、**共同化や地区計画等を活用することにより敷地内での十分な歩行者空間を確保**し、車両との分離を目指していく。

特に学園通りは、自由が丘の中でも比較的中規模の敷地が揃う沿道であることから、良質な商業店舗が立ち並ぶ**東京を代表するストリート**としての整備を目指していく。

〈楽歩地区〉の外周道路については、グリーン×デジタルの実装により、今後予想される自動運転車両をはじめとする次世代交通技術や歩行者支援技術の進展にも対応する道路としていく。



〈楽歩地区〉の中心部は、都市計画道路補助 127 号線と同補助 46 号線が交差することから、これに面する敷地での共同化や地区計画等を活用することにより、九品仏川緑道に並び自由が丘の名所となる**クロス型オープンスペースによる歩行者空間の整備**を目指していく。

